

●高校生による復興支援ボランティア

【高校教育課】 P 1

災害の痛みを共有する活動として、「高校生による復興支援ボランティア」を6月18日（土）に実施しました。

●特別支援教育なう Vol.15

【特別支援教育課】 P 2

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

●子供たちに豊かな体験活動を！

【社会教育課】 P 4

県内4青少年教育施設において開設している「出前講座」のメニューと申込方法、諸経費等について紹介します。

●東京大学視察研修を実施しました！

【教育政策課】 P 5

県内高校生60人が東京大学（工学系研究科総合研究機構）を訪れ、科学技術に関する講義の受講や最先端の研究施設の見学などを行いました。

将来の目標を具体的に考える契機となるとともに、他校の生徒と過ごすことで大きな刺激を受ける貴重な経験になりました。

●平成27・28年度文部科学省委託「スーパー食育スクール事業」

【体育保健課】 P 6

知育、徳育、体育の基盤となる「食育」実践があさぎり町立免田小学校で行われています。今回、企業、生産者、関係機関などと連携し、食育の素晴らしさを実証するデータが示されました。また、栄養教諭が、コーディネーターとして学校・家庭・地域をつなぐ役割をどのように果たせばよいのか、学校総体として職員がどのような食育を推進していけば健康増進等の効果が上がるのか、その実践モデルを紹介します。

●子どもたちのために一生懸命な先生方。あなた自身は大丈夫ですか？（その2）

【福利厚生室】 P 8

働き続けていれば、誰もが身体と同様、心にも疲れ（ストレス）を感じるものです。疲れがとれないことは誰にでもあります。心身の不調が長引いていたら注意が必要です。意識して自分を労わる時間を作りましょう。

●秋の遺跡発掘体験・見学会のお知らせ。

【文化課】 P10

現在調査中の遺跡発掘現場を夏休み中に一般公開しました。地域の歴史を学び、本物の土器や石器に触れる良い機会でした。

学校の先生方をはじめ児童・生徒の皆さん、一般の方に文化財の素晴らしさを伝えることができました。

そこで、秋の遺跡発掘体験・見学会を再度実施することにします。

多数のご参加よろしく申し上げます。

●地域の文化財を活用したふるさと体験学習

【文化課】 P11

一昨年度から、県南の小学校でも文化財に関する体験教室を、地域の文化財を活用して実施しています。

今回は水俣地域で公開授業を水俣市立水東小学校で実施しました。

今回の公開授業では、水東小学校全校児童が参加し、発掘調査現場（北園上野古墳群）をフィールドに遺跡見学、体験発掘、出土した遺物等の文化財を実際に見て、触って、学ぶ体験重視の歴史学習を展開しました。

●女性活躍推進法の施行に伴う「第3期特定事業主行動計画」の改定について

【教育政策課】 P12

女性活躍推進法の施行に伴い「第3期特定事業主行動計画」を改定しました。職員みんなで理解し合い助け合って、仕事も子育ても安心してできる職場づくりに向けて、皆さんの職場でも是非計画を御覧になって、よりよい職場づくりについて話し合ってみてください。

●学校の取り組み

○理数科のアンカーたち

【県立荒尾高等学校】 P13

1988年(昭和63年)度に設置され、28年目を迎えた今年度、高校再編に伴って荒尾高校理数科はその歴史を閉じます。現3年生は、入学当初より理数科のアンカーとして自覚をもって、高校生活を送っています。その成果の一つとして、第18回中国・四国・九州地区理数科高等学校 課題研究発表大会(徳島大会)において、最優秀賞を受賞しました。

○赤ちゃんとなかよし ～ 高校生と赤ちゃんのふれあい交流 ～

【県立鹿本商工高等学校】 P15

山鹿市教育委員会子ども課のご協力をいただき、地域の赤ちゃんやお母さんと交流しました。女子生徒だけでなく、男子生徒も赤ちゃんとは仲よくなりました。

○心に響け！ひのくに太鼓♪

【県立ひのくに高等支援学校】 P16

「生徒たちに人前に立つ経験を通じてもっと自信を持ってほしい」そんな職員の思いから始まったボランティアとしての演奏活動。『黒髪地区地域ふれあいフェスティバル』と『山鹿デイサービスセンターアロハ10周年記念イベント』出演に焦点をあて、ひのくに高等支援学校での取組を紹介します。

○「過去・現在・未来」へとつなぐ各教科の取組

【県立荒尾支援学校】 P17

本校では児童生徒のキャリア発達を指導支援するための3つの力、『かかわる力・はたらく力・きめる力』をキーワードに掲げ授業を展開しています。

中学部一般学級では、卒業後に高等部への円滑な移行、そして将来の夢や希望を実現すべく、高等部や進路指導部との連携を図りながら授業を計画しています。本稿では、家庭や他学部さらには卒業生との「つなげる」教育実践のひとつとして職業・家庭の学習内容について紹介します。

○施設体験学習報告会及び現場実習報告会

【県立荒尾支援学校】 P18

障がいの有無にかかわらず、すべての人が住みやすいハートフルな共生社会の実現を目指して取り組んできた「オープンスクール・ハートフルシンポジウム」が、7月1日に本校で行われました。その中で、「自信を持った発表が素晴らしかった」「生徒が将来に向けて自分と向き合っていることが伺えました」等、好評を頂いた高等部重複障がい学級2年生による施設体験学習報告会と高等部一般学級3年生による現場実習報告会について紹介します。

○中原小との花の交流～20年を迎えて～

【県立小国支援学校】 P19

本校小学部と南小国町立中原小との交流は、今年で20年を迎えました。その活動の様子をお伝えします。

○交通安全教室～自転車シミュレーターを活用して～

【県立球磨支援学校】 P20

自転車を利用する生徒の危険予測能力の向上を目指し、今年度初めて自転車シミュレーターを活用した「交通安全教室」を行いました。その学習の様子を紹介します。

●嘉島中生徒会復興プロジェクト「立ち上がろう嘉島町 負けんばい嘉島中」

【上益城教育事務所・嘉島町立嘉島中学校】 P21

嘉島町立嘉島中学校では、平成28年熊本地震からの復興を目指し、生徒会がリーダーとなり避難所でのボランティア活動等、自主的に活動を続けています。

●古代の瞳にうつったデザイン探し… 古墳館で秋の企画展開催！

【県立装飾古墳館】

P 23

この秋、装飾古墳のデザインに触れてみませんか。
古墳館では、2つの企画展を予定しています。あの装飾古墳の文様(古代アート)が、現代アートに！
その他イベントも盛り沢山です。

●「来熊 120 年 漱石と熊本 一秋はふみ吾に天下の志一」

【県立図書館】

P 25

夏目漱石の来熊 120 年を記念した企画展を開催します。漱石は明治 29 年に五高教師として熊本に赴任し、以来 4 年 3 ヶ月をこの地で送りました。生涯のほとんどを東京で過ごした漱石にとって、熊本は、東京に次いで長く滞在した土地です。

熊本での、俳人としての漱石、五高教師としての漱石、結婚した家庭人としての漱石に注目し、自筆の短冊や書簡を展示します。また、当時の熊本についても、資料を通してご紹介します。

熊本での生活は、その後、作家となった漱石によって『草枕』『二百十日』に描かれ、文豪漱石の足跡として結実します。漱石来熊 120 周年の記念年のこの機会に、漱石と熊本とのつながり、ならびにその時代に対する関心を広く呼び起こし、熊本の文化の奥深さや魅力を感じていただきたいと思います。

第 2 回鞠智城フォトコンテスト (グランプリ 上野 弘喜)



詳細はホームページより <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

教育くまもとは年間4回（4月，7月，10月，1月）発行しております。
記事の掲載依頼は、熊本県教育庁教育政策課 広報・情報班まで